

様々な企業体

岡安 喜三郎

．「企業とは何か」

- ・ 非営利企業を含めた企業の定義：（「日本の企業システム第1巻」（有斐閣）より）
 - (1)財・サービスの提供を主な機能として作られた，
 - (2)人と資源の集合体で，
 - (3)一つの管理組織のもとにおかれたもの
- ・ 「企業（ビジネス）とは顧客の創造である」（ドラッカー）
- ・ 「経営とは企業の生き様」（前川製作所社長）
- ・ 「企業活動は信用である——資本と約束」＜資本調達と約束厳守＞
 - 品物を買うときを想起してみよう——品質、価格、サポート、メーカー
 - 特にサービス分野はサービス提供組織の信用が決め手。
- ・ 「企業成功の4条件」
 - 1．ビジョン（みんなが実現したいと思う確かな未来像）
 - 2．技術力（解決技術、変換する、変化を起こす技術力）
 - 3．関係性（コミュニケーション、信頼関係、出資者からの信頼）
 - 4．リーダーシップ（上記三点をまとめ上げるリーダー）

．企業の種類

企業概念の整理（「企業形態論第2版」（小松章著、新世社刊）より）

- ・ 経済事業組織（広義の企業）
 - 営利経済事業組織＝私企業（狭義の企業）
 - ◇ 個別企業形態
 - 個人企業、株式会社等
 - ◇ 結合企業形態
 - 取引系列、持株会社等
 - 非営利の経済事業組織
 - 公企業
 - 協同組合
 - 自営業（家族労働）
- ・ 非経済事業組織

- 官庁（役所等）、福祉法人、宗教法人等

「市場 VS 社会」という視点からの分類：「経済の見直し」

- ・ 「市場での成功」と「人々の幸福」：大変な課題である——「両立か優先か」
 - 市場経済 VS 社会経済
 - 競争経済 VS 連帯経済
 - 集中と排除 VS 連帯と包容
- ・ 社会的企業——制度としてはヨーロッパが先行している
 - 社会経済を担う企業
 - 社会統合をめざす企業
 - 社会目的を持った企業、社会性を持った企業
 - コミュニティに密着した企業、コミュニティ企業
 - 共通分野：医療、福祉、環境、教育、文化 etc.

・「企業」の組織力

- ・ 近代的経営組織のモデル：（伝統的モデル）

「競争に勝つ！」 — モデルは軍隊組織（特にプロイセン）

 - ラインとスタッフ
 - ☆ ライン — 指揮命令の徹底、ペナルティ
 - ☆ スタッフ — 参謀（情報収集と方針策定）
 - 伝統的な経営手法、経営論とは、「マネジメントは命令や権限、統制に依存するし、重要視されるのは力と権限である。各々の部分や機能は分析可能で、別々の取り扱いが可能。組織は上級の幹部がリードすべきもの。かくして人は組織目的に合うように訓練される、等々」の考え方、およびこれらを根底に置いた一連の業務とそのサイクルを言うことにする。
 - 最大の弱点：企業の生命線である生き生きとした情報は「現場」（利用者、顧客との接点の場）にある、このことを位置付けられない。
 - 「数値のみで管理するには、仕事を知らないほうが良い」（経験則）
 - 「つめが得意」という（ヒラメ）幹部が必ず生まれる。

アメリカが日本から学んだもの（1980年代中盤）で、その日本は。
- ・ 「目標・方針を決める」「時間内に遂行する」「見直す」——マネジメントの核
 - PLAN - DO - SEE：どのような組織でも、これなしに組織は成立しない。
 - 他人に管理されるか、自分で管理するか、自分たちで管理するか。
 - 業績数値は重要。しかし、それは様々な努力・要因の結果である。

「個人の力とチーム力」「信頼」「共感」etc.

- ・ 「チーム活動」として仕事をする
 - PLAN - DO - SEE を押さえながら、詰めではなく、改善方向を。
 - 「他律的役割分担」から「自律的役割分担」へ、自分たちで管理する。
 - 自らの能力を会社のためにではなく他の人のために使う。(共に働く者、事業利用者、コミュニティの住人)
 - コミュニケーション
 - 共に一緒に経験し、学びあい、力を出し合いたいという人と一緒に働く。
分野や局面でみんながリーダーになる、なれるチームに。
 - みんなで総括リーダーを選出する。選ぶ責任、選ばれた責任。

・ まとめ——職場を探す、職場をつくる

- ・ ハイリスク、ハイリターン
- ・ ローリスク、ローリターン

参考文献

「共生の大地」岩波新書 No381 内橋克人著
「時代のまちづくり」丸善ライブラリー 池上淳他著
「社会起業家」PHP 新書 134 町田洋次著
「定常型社会」岩波新書 No.733 広井良典著

以上

資料：様々な企業形態（「企業形態論第2版」（小松章著、新世社刊）より）

ここに資料貼り付け